

<株式会社エフエム東京 第358回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成21年5月12日（火）

2. 開催場所：エフエム東京 本社10階 大会議室

3. 委員の出席：委員総数7名（社外7名 社内0名）

◇出席予定委員（7名）

子安美知子 委員長 青池慎一 副委員長

内木文英 委員 渡辺貞夫 委員

横森美奈子 委員 内館牧子 委員

香山リカ 委員

◇欠席委員（0名）

4. 議題

番組試聴：「コスモ アースコンシャス アクト アースデー・コンサート」
ダイジェスト版

2009年4月22日（水） 19:00～20:55 放送分

（試聴時間：約20分）

<<議事内容>>

議題1：最近の活動について

◎新型インフルエンザ報道対応について

新型インフルエンザの発生に伴ない TOKYO FM では、世界各地での感染状況や WHO・厚生労働省の動向など最新情報の収集、確認を行っております。

この新型インフルエンザはリスナーにとっても最も関心の高い情報と判断し、「安全・安心」を定期的に伝えるべく、GW前から平日の毎時報後に最新情報を放送しています。今後、さらに国内で感染が拡大する場合等に備え、報道・制作の体制強化を図るべく、放送対応マニュアルを整えております。

◎グリーンマンデー企画を実施

「アースコンシャス～地球を愛し感じる心」理念の具現化の一環として、毎週月曜日、グリーン電力を利用して放送を行う「Green Monday」企画をスタートしております。

この企画は、風力・水力・バイオマス（生物資源）などの自然エネルギーによる、CO2を発生しない環境負荷の小さな電力（＝グリーン電力）の一部（毎月約1800kwh）をTOKYO FMが負担するものです。4月は木質バイオマス（木材を燃焼して発電する方法）、5月はバガス発電（さとうきびの絞りかすを燃焼して発電する方法）と様々な方法で実施しています。

これに合わせ月曜日は選曲やゲスト人選、話題のピックアップについてエコを意識した番組編成とし、昼ワイド番組「ONCE」では「Green Live」とのタイトルでアコースティックライブを実施。またTOKYO FMホームページのTOP画面もグリーン仕様としています。この企画には4月、5月は東京都の協賛が決定しました。

◎福岡ユビキタス特区実験試験局 本格スタート

2011年7月にアナログテレビ放送が終了することにより、その跡地となるVHF-LOW帯（現行1ch-3ch）を、「地方ブロック向けマルチメディア放送」のための帯域とすることが、国の方針により決定しております。TOKYO FMでは、その帯域において、「マルチメディア3セグ放送」（TVでもラジオでもない新たな放送）の試みを実施しております。

そのサービスモデル構築を目指す「福岡ユビキタス特区」（2008年1月、総務省の「ICT改革促進プログラム」および「ICT国際競争力強化プログラム」に基づいて指定された22地区のうちの一つ。革新的なサービスの開発・実証実験を支援する事業を行う）が、去る3月31日、「実験試験局」の本免許を受領しました。

既にデータ放送を使った各種実験を進めておりますが、5月中旬よりはモニターを募り、携帯電話型受信端末を200台配布して番組を流し始めます。この特区の先進性・希少性に着目し、3月までに西鉄、NECビッグロブ、三井物産、レーベルゲート等20社が実験参加を表明しております。今後、参加社と共同で、放送波による楽曲や動画のダウンロード販売、公共電子看板の運営、インターネットコンテンツを有効利用した放送の構築等、3セグマルチメディア放送の可能性を実証してまいります。また、「ぐるなび」「吉本ファンダンゴ」「エイベックスマーケティング」などのコンテンツホルダーも新たに参加表明し、それについては日本経済新聞4月9日朝刊記事に掲載されました。その後も参加を検討している企業・団体が相次いでおり、順次、番組・サービスの開発と、多様な種類の受信機開発を進めて参る所存です。

◎尾崎豊特別番組で未発表音源を放送

尾崎豊18回目の命日を迎えた2009年4月25日（土）に、特別番組「KDDI presents 尾崎豊メモリアルスペシャル『BIRTH FROM 1991 TO 2009』」をJFN系38局ネットで放送しました。これは、尾崎豊の最後のツアー「TOUR 1991 BIRTH YUTAKA OZAKI」の未発表ライブ映像が発見されたことを機に制作されたもので、1991年5月20日に横浜アリーナで行われたツアー初日の貴重な音源を初解禁するとともに、今だから語れる様々な尾崎豊秘話をご紹介します。また尾崎豊着うた初解禁に合わせた企画でもありリスナーの関心も高く、FM付き携帯電話からの曲名検索（NOW ON AIR）も深夜帯にも関わらず通常時の10倍ものアクセスを記録しました。

議題2：番組試聴

【番組名】「コスモ アースコンシャス アクト アースデー・コンサート」
ダイジェスト版

【放送日時】2009年4月22日（水） 19:00～20:55 放送

【制作意図】

TOKYO FMをはじめとするJFN 38局は、地球環境の保護と保全を全世界に呼びかけていく活動「コスモ アースコンシャス アクト」を、年間を通じて展開しています。なかでも、1990年の活動スタート時から、毎年4月22日の「アースデー」に、音楽を通して「アースコンシャス～地球を愛し、感じるころ」を世界の若者にメッセージする「アースデー・コンサート」を年間最大のイベントとして実施。例年この趣旨に賛同した内外のアーティストたちの地球への愛を歌い上げる一夜限りのライブが、話題を集めてきました。

今年で20回目の節目となる本年度は、若手女性シンガーの中でも人気実力ともにNo.1といえる存在である「絢香」さんが、ワンマンライブを披露。さらに、アンコールではサプライズゲストに小田和正さんを迎え、約10,000人の武道館の観客を新たな感動で一つにしてくれました。

TOKYO FMをはじめとするJFN系38局では、本年度もこのコンサートの模様を、生中継による特別番組で19時から2時間にわたり放送。さらに、世界29の国と地域・69の放送局（日本を含めると30カ国107の放送局）に向けても放送を行いました。

<第358回放送番組審議会議事録>

【番組内容】

今年の特別番組は、20周年を記念し、スペシャルMCに小林克也氏を迎えて放送。過去の出演者からのコメントと、武道館からのライブ生中継を組み合わせ、これまでの20年とこれからの20年を感じさせる内容といたしました。

また、絢香さんはコンサートに先立ち3月14日、アルピニストの野口健さん、浦安市明海小学校6年生の児童たちと、雨の中、卒業記念植樹を体験。その日の子供たちとの交流の様子を会場で映像で上映し、合わせて放送でもその一部を放送しました。

<試聴時間：約20分>

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

- 継続聴取のためには、喋りと楽曲の絶妙なバランスが大事だと感じる。喋りすぎても良くないし、良くない音楽を流し続けても途中で切られてしまう。その点、この番組・企画は、他局にはないことをやっていて意義がある。“地球”という大きなテーマだけではなく、より切り込んだテーマを考えていくことも必要ではないかと思った。
- “Mother Earth for Children”と、子供たちをテーマにしているのであれば、「TOKYO FM 合唱団」を使うなど、より工夫をしてもよかったのではないかと感じた。
- 観客との融合性もこのイベントのよいところ。「これまでの20年を見つめ直しながら、これからの20年を考えていく」というテーマも、環境問題に対する意識が一般的でなかった20年前にはありえなかったこと。価値のあることなので是非続けてほしい。
- 過度な説明をするよりも、彼女の歌声自体に、聴く者を捉える力がある。素晴らしい表現には説明はいらないということを改めて実感した。
- 1アーティストだけの出演だと、そのアーティストのファンだけが見に来たり、番組を聴いたりすることで終わってしまうのではないかという懸念も感じた。

<第358回放送番組審議会議事録>

- 確かにその点は議論を重ねている部分で、重要な問題だと思っている。
多くのアーティストが出演すると、今度はその顔ぶれで満足してしまう部分もある。
今回は、事前に植樹活動を実施してアーティストと子供たちの交流の機会を作り、
その模様を会場で紹介したほか、野口健さんとの中継トーク、MCなどで、メッセージ性のある内容を盛り込んで工夫した。今後も課題として検討を重ねていきたいと思う。

- 絢香さんも番組MCの小林克也さんも、全体のトーンがとても真面目で、少々驚いた。
今の若い世代は、逆に真面目のものに素直に共感する世代なのかもしれないが、
音楽のもつ自由さがそがれる感じもして、若干勿体無い様にも感じた。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送：番組「リサ・ステッグマイヤーのクロノス」
5月29日（金） 5：00～8：30 放送
- ② 書面：TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット：TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会は6月9日（火）に開催することを決めた。

以 上